

教職大学院 NEWS



三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

第12号 H30.8月発行

確かな学びを感じた、教職大学院中間報告会

8月2日（木）、三重大学教職大学院の中間報告会を実施しました。本年度は、第1部（午前）が2期生、第2部（午後）が1期生という二部構成で行われました。院生それぞれが、自身の学修テーマについて、探求の進捗状況を報告しました。報告後の質疑応答では、活発なやりとりが行われ、これらを通して、院生は、これまでの学修の成果や課題を整理したり、今後の探求に必要な示唆を得たりしました。1期生は1年半の、2期生は半年の、自身の学びの成果を確認する場となりました。



有意義だった東紀州実習現地学習会

8月6日（月）、本年度、新たに「東紀州実習現地学習会」を実施しました。これは、10月上旬に予定している「東紀州実習」での学びをより深いものとするために、事前に現地を訪れ、東紀州地域の状況及び教育活動等について知ることを目的に実施するものです。当日は、大学のバスを借り切り、尾鷲市教育委員会及び熊野市教育委員会を訪問させていただきました。午前の尾鷲市教育委員会では、「尾鷲市教育ビジョン」についての意見交換会を行いました。午後の熊野市教育委員会では、熊野市の教育の特色や概要等についてご講義いただき、質疑応答の機会を設けていただきました。院生たちは、事前に尾鷲市及び熊野市の教育活動等について授業で学習をしており、各教育委員会の学習会では活発に質問や意見等を出していました。それらに、尾鷲市、熊野市の教育委員会の方々はお答えいただき、大変勉強になりました。お陰様で、大変有意義な学習会とすることができました。ありがとうございました。



<尾鷲市教育委員会での学習会>



<熊野市教育委員会での学習会>

東紀州実習現地学習会に参加した院生の感想をいくつか紹介します。

「尾鷲市教育ビジョン」を全員で読み合わせしたうえでの学習会でしたが、やはり調べたものと、現場でのお話は伝わる空気感が全く違いました。ビジョンでは広範な内容をきれいに記載されている印象でした。そのビジョンに書かれているような様々な課題に、限られた資源の中で優先順位やその他の調整をうまく図りながら果敢に取り組んでおられる様子（気持ち）が伝わってきました。そのことは、つまり尾鷲を愛する気持ちだと思います。『子どもを育てるということは未来を作ることだ』という言葉がとても強く心に残っています。自分も常々思っているところであり、まさに会心の一言でした。また、尾鷲市教育委員会の合言葉としてご紹介いただいた『はい！前からやりたいと思ってました！』は、自分もこれから座右の銘としていきたいと思えます。これから実習でもっとたくさんの方の事を肌で学ばせていただきたいと思えます。お忙しい中、お時間をいただき、ありがとうございました。

（学校経営力開発コース・黒田健太郎）

尾鷲市の教育の指針となる基本理念「共創、共育、共感～次代を創るおわせ人づくり～」を基に、さまざまな取り組みがされてきましたが、特に、確かな学力の定着を目指し、「わからない子どもをそのままにしない」という取り組みに、自分の学修テーマとつながるものを感じました。全教員だけでなく、教育委員会の方や地域の教員経験者など、たくさんの方が子どもたちを支えようと活動することに、この地域の温かさを感じました。また、現地学習会の後、尾鷲市役所のホームページから尾鷲市教育長だよりを見させていただきました。270号にもわたった教育長の「おわせ人づくり」への熱い思いが素晴らしく、尾鷲というローカルさを大切にされていることに感銘を受けました。この、温かく、熱い思いを持つ尾鷲市での取り組みを、実習校で学び、自分の学修テーマを深めていこうと決意することのできた、現地学習会でした。

(学校経営力開発コース・赤坂珠子)

学習会では大変お世話になりました。事前の調べ学習で疑問に思ったことも、丁寧なご説明でよくわかりました。特に、早い対応による「不登校0」のお話や、鰯の3枚おろしができるようになり中学を卒業する子どもたちを育てる「ふるさと教育」が心に残りました。また、直接お話を伺い、これぞふるさとを愛する「おわせ人」というものを感じ、ますます東紀州実習が楽しみになりました。お昼に立ち寄ったおとと食堂での海の幸に舌鼓を打ちながら、尾鷲がぐっと好きになっている自分を感じています。ありがとうございました。

(学校経営力開発コース・大西恵美子)



私は東紀州実習の学習会に参加して、熊野市では学校と地域が強く結びついた教育活動が行われていることを知りました。まず、新姫や那智黒石など、熊野市の特産物が教育活動で扱われているところに魅力を感じました。他の地域ではおそらく扱われない、熊野市ならではの教材で学んでいる子どもたちの様子について、もっと詳しく知りたいと思いました。他にも、地域の方々が特別非常勤講師として教育活動に関わっているというお話から、学校と地域の方々が連携して子どもたちの成長を支えていることがわかりました。

10月の実習では、熊野市の小学校において、ふるさとへの愛情や誇りを育てる教育活動がどのように行われているかに着目したいと思っています。授業参観をはじめとした幅広い教育活動への参加を通して、子どもたちや先生方の姿から学びたいです。

(教育実践力開発コース・吉村友希)

熊野市の学習会に参加して、熊野市の特色ある教育活動について学習することができました。熊野市のプロモーションビデオを鑑賞して、地域の特産物が多くあることを改めて知ることができました。新姫というかんきつ類が給食に登場したり、那智黒石を題材にした以後授業など、特産物を教育活動に生かしていることも知りました。

10月の東紀州実習では、これらの特産物はもちろん、熊野市の自然環境も含めて、教育にどう生かすかを自分なりに考えてみたいと思いました。

(教育実践力開発コース・西田郁美)

私は御浜町の学校に実習に行く予定であり、先日打ち合わせにて御浜町や実習校についてお話を聞かせていただきました。

今回、熊野市の教育施策についてお話を聞かせていただいた中で、御浜町の教育と共通する点がいくつかありました。特に少人数の学校が多い中、複式学級などを編成し工夫されている点は共通することかと思えます。

実習では、少人数であることを活かした授業や活動、異学年間の交流の様子をぜひ学びたいと思います。今回は貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

(学校経営力開発コース・田中克哉)

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 広報担当

☎ 059-231-9319 (学務担当)

〒 514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

URL <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp> (教職大学院専用 HP)

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp